

地震時のいのち綱

栄区ぼちっと

地震後、電車が止まり、タクシー、バスは長蛇の列、
あきらめて自宅まで歩いて帰った方が多くいました。トイレは？ お水は？
そんなとき、コンビニが「災害時帰宅支援ステーション」になることを
ご存じですか？

第2弾

—— 横浜市の災害時の状況についての聞き取りから

コンビニとの災害協定について

災害時帰宅支援ステーションについては、特に市からコンビニに要請や指示をだすというのではなく、災害時には、それぞれの判断でコンビニのやれる範囲で実施することができるということです。実際、通信機能がパンクしたので市からの連絡はできませんでした。各コンビニがどの程度協力したのかは、今のところ把握できていないとのことでしたが、歩いて帰宅した人から、水を配っていたという話もあります。

自宅までの長く暗い道のりで、コンビニがトイレや水などを提供し、帰宅困難者のいのち綱になってくれたら、心強いですね。

<参考資料>

八都庁市「災害時における帰宅困難者支援に関する協定」締結について 平成19年2月

(社)日本フードサービス協会加盟の4社と、災害時における1.水道水2.トイレ3.各種の災害情報4.一時的な休憩の場の提供を内容とする協定を締結することになりました。

(中略)

1 協定の概要

(1) 協定名

八都庁市「災害時における帰宅困難者支援に関する協定」

(2) 支援の内容

大規模災害により交通が途絶した際、徒歩帰宅者に対し、

ア 水道水やトイレを提供する。

イ ラジオやテレビ等で知り得た災害情報の提供を行う。

ウ 一時的に休憩の場を提供する。

なお、本協定に賛同した店舗を「災害時帰宅支援ステーション」と呼称し、「災害時帰宅支援ステーション」ステッカーを店舗の入り口等、利用者の見やすい位置に掲出する予定。



このステッカーが貼つてあるお店に注目!

帰宅困難者の子供

保育園については、施設の性格上、それぞれの判断で、親が引き取れない場合は朝まであずかることを前提で対応しているそうです。

認可保育園と横浜保育室について集約したところ、579施設中375施設から返事があり、園に泊まった子どもは154施設406人。公立学校については、小中高校で165人が校内に泊まったとのこと。

放射能被害対策

放射能被害対策については、横浜市だけの判断ではなく、広域的(県や国)に判断する必要があるため、市として方針や計画があるわけではないとのこと。またヨードについては備蓄はないが、市が指定している災害拠点病院など主要な病院にはおいてあります。

放射能測定について

市の環境創造局では磯子の環境科学研究所での放射能測定値をHPで載せていますが、そもそも公的な測定ではないので、正確であるとは言えないようです。

また、放射能を取り扱う施設がある横須賀市や川崎市では、監視のため複数個所の正式な測定値を以前からHPに載せているようです。いろいろ問い合わせがあるようですが、今のところ値はごく微量なので、冷静に判断してほしいとのことでした。

被災者とコロッケ

★横浜市磯子区にある「たきがしら会館」では横浜市として被災者の受け入れをしています。
3/21 17時発表 54人 福島県からの被災者です。

★栄区桂台の「浜コロ」さんが、コロッケをたきがしら会館に差し入れをしました。浜コロの新井さんより相談があり、藤田みちるが市に問い合わせ、受け入れていただきました。温かいコロッケ、おいしかったですね。

藤田みちる天神橋事務所で「東日本大震災」義援金を受け付けています。義援金は赤十字に送ります。